

2021年9月17日  
早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター

創造的復興研究会・研究課題1「2050年の福島浜通りの産業・人口・地域像を考える」  
WG1第2回会合 議事録

日時：2021年9月16日（木）18:00-20:08

方式：Zoom

出席者（敬称略）：

松岡俊二：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・教授  
林 誠二：国立環境研究所福島地域協働研究拠点・研究グループ長  
遠藤秀文：株式会社ふたば・社長、福島県富岡町  
小磯匡大：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校教諭  
永井祐二：早稲田大学環境総合研究センター・研究院准教授  
岡田久典：早稲田大学環境総合研究センター・上級研究員  
李 洸昊：早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・助教（途中退出）  
佐藤亜紀：HAMADOORI 13 事務局  
島田 剛：明治大学情報コミュニケーション学部・准教授  
戸川卓哉：国立環境研究所福島地域協働研究拠点・主任研究員  
辻 岳史：国立環境研究所福島地域協働研究拠点・研究員  
除本理史：大阪市立大学大学院経営学研究科・教授  
吉田 学：HAMADOORI 13・代表、株式会社タイズスタイル・代表取締役、福島県大熊町

（欠席）

豊田利久：神戸大学・名誉教授

オブザーバー

福地慶太郎：朝日新聞福島総局（途中退出）  
池辺 靖：日本科学未来館・科学コミュニケーション専門主任（途中退出）  
井上 正：電力中央研究所・名誉研究アドバイザー  
小林正明：中間貯蔵・環境安全事業株式会社・社長

事務局：

朱 鈺：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・博士課程  
山田美香：早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター・福島駐在研究員  
中野健太郎：早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・博士課程

報告1 島田 剛：2050年の福島浜通りにおける産業ビジョンを考える（詳しくは報告資料を参照ください）

- ・国際分業の新たな展開の中で、20世紀型の企業誘致政策による地域発展モデルは大きな限界がある。
- ・経済成長の駆動力としての「期待」の重要性という観点から、福島イノベーション・コースト構想の成否には人々の「期待」形成が不可欠である。
- ・20年の赤字経営を国などの公的支援で乗り切り、世界企業に発展したフィンランド・ノキア社などの

事例から、思い切った「人への投資」を中心とした「学びの産業化」といったことを、福島浜通りの国際教育研究拠点構想では考えたかどうか。

## 報告 2 除本理史:『地域の価値』をどうつくりだすか (詳しくは報告資料を参照ください)

・経済成長の原動力が「モノづくり」から「コトづくり」へと大きく変化し、知識や感動といった無形の要素が価値を産むようになっている。

・スクラップ・アンド・ビルド型の 20 世紀型の開発手法ではなく、地域固有の自然や景観、伝統や文化、コミュニティにおける人と人との関係を活かした「地域のリノベーション」や「多様なスモールビジネス」の展開が、21 世紀における地域開発手法の主流になりつつある。

・戦争や事故や災害などの「困難な過去」を「地域の価値」として活かし、「学習コミュニティ」や「地域プラットフォーム」を形成し、人々の未来への「希望」や「期待」を形成することが、地域社会の再生につながる。

## 今後の日程について

9/24 (金) 08:30-11:00	第 16 回 1F 廃炉の先研究会
9/24 (金) 14:00-16:00	地域社会と伝承館との「対話の場」検討グループ 第 2 回会合
9/26 (日) 14:00-16:00	環境経済・政策学会 (SEEPS) 2021 年次大会・企画セッション「ポスト・トランス・サイエンスの時代における専門知と地域知との協働のあり方を考える」
10 月下旬	「アメリカの廃炉と市民対話」事前勉強会 (予)
11/5 (金) 18:00-20:00	第 2 回創造的復興研究会
11/14 (日) 13:00-17:00	シンポジウム「広島原爆ドームの世界遺産 (文化遺産) 登録と 1F 廃炉の将来像を考える」
11/27 (土) 11:00-12:00	「復興知」プラットフォーム会議及び活動報告会 (予)
11 月下旬	第 17 回 1F 廃炉の先研究会、Helen Balencan 氏「アメリカの廃炉と市民対話」
12 月中下旬	第 3 回創造的復興研究会
2022 年	
1/23 (日) or 1/30 (日)	第 9 回ふくしま学 (楽) 会 (予)

以上